



未来に伝えよう 文化財

～文化財行政のあらまし～

文化庁文化財部

文化財とは何か

「文化財」の種類

文化財は、我が国の長い歴史のなかで生まれ、育まれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な国民の財産です。

社寺や民家などの建造物、仏像、絵画、書画、そのほか芸能や工芸技術のような「技術（わざ）」、伝統的行事や祭り、あるいは長い歴史を経て今に残る自然の景観、歴史的な集落、町並みなども文化財に含まれます。

文化財保護法では、これらの文化財を、次のように分類しています。

■有形文化財 建造物、絵画、彫刻、工芸品、書跡、典籍、古文書などで歴史上又は芸術上価値の高いものや、考古資料及びその他の学術上価値の高い歴史資料を有形文化財と呼びます。

このうち、「建造物」以外のものを総称して「美術工芸品」と呼んでいます。

■無形文化財 演劇、音楽、工芸技術その他の無形の文化的所産で歴史上又は芸術上価値の高いものを無形文化財と呼んでいます。「わざ」を体得した個人又は団体によって体现されるものです。

■民俗文化財 衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する風俗慣習、民俗芸能、民俗技術やこれらに用いられる衣服、器具、家屋などで生活の推移の理解のため欠くことのできないものを民俗文化財と呼んでいます。

■記念物 貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅などの遺跡で歴史上又は学術上価値の高いものや、庭園、橋梁、峡谷、海浜、山岳などの名勝地で芸術上又は観賞上価値が高いもの、

さらには、動物、植物、地質鉱物で学術上価値が高いものを記念物と呼んでいます。

■文化的景観 地域における人々の生活や生業、地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活や生業の理解のため欠くことのできないものを文化的景観と呼んでいます。

■伝統的建造物群 周囲の環境と一体となっている伝統的な建造物群で価値の高いものを、伝統的建造物群と呼んでいます。

これらの文化財のうち、重要なものを重要文化財、重要無形文化財、重要有形・無形民俗文化財、史跡、名勝、天然記念物等として国が指定・選定・登録し、重点的に保護しています。

また、重要文化財のうち特に価値の高いものを国宝に、史跡、名勝、天然記念物のうち特に重要なものを特別史跡、特別名勝、特別天然記念物に指定しています。

そのほかに、土地に埋蔵されている文化財を埋蔵文化財、文化財の保存・修理に必要な伝統的な技術・技能を文化財の保存技術と呼び、保護の対象としています。

国指定等文化財の件数

平成29年8月1日現在

指定 国宝・重要文化財		国 宝	重要文化財
美術工芸品	絵画	160件	2,010件
	彫刻	131件	2,699件
	工芸品	253件	2,452件
	書跡・典籍	225件	1,906件
	古文書	60件	763件
	考古資料	46件	626件
	歴史資料	3件	198件
	計	878件	10,654件
建造物		282棟 223件	4,935棟 2,474件
合 計		1,101件	13,128件

注 重要文化財の件数は国宝の件数を含む

指定 史跡名勝天然記念物			
特別史跡	61件	史跡	1,784件
特別名勝	36件	名勝	402件
特別天然記念物	75件	天然記念物	1,024件
計	172 (162) 件	計	3,210 (3,096) 件

注 史跡名勝天然記念物の件数は特別史跡名勝天然記念物の件数を含む
史跡名勝天然記念物には重複指定があり、()内は実指定件数を示す

登録 登録記念物		99件
選択 記録作成等の措置を講ずべき無形文化財		91件
選択 記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財		628件

指定 重要無形文化財				
	各個認定		保持団体等認定	
	指定件数	保持者数	指定件数	保持団体等数
芸能	37件	54人 (54)	13件	13団体
工芸技術	39件	58人 (57)	14件	14団体
計	76件	112人 (111)	27件	27団体

注 保持者には重複認定があり、()内は実人員数を示す

指定 重要有形民俗文化財		220件
指定 重要無形民俗文化財		303件

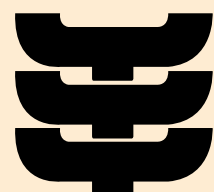
選定 重要文化的景観		51件
選定 重要伝統的建造物群保存地区		115地区
選定 選定保存技術		
保持者	保存団体	
46件 54人	32件 34団体 (31団体)	

注 保存団体には重複認定があり、()内は実団体数を示す

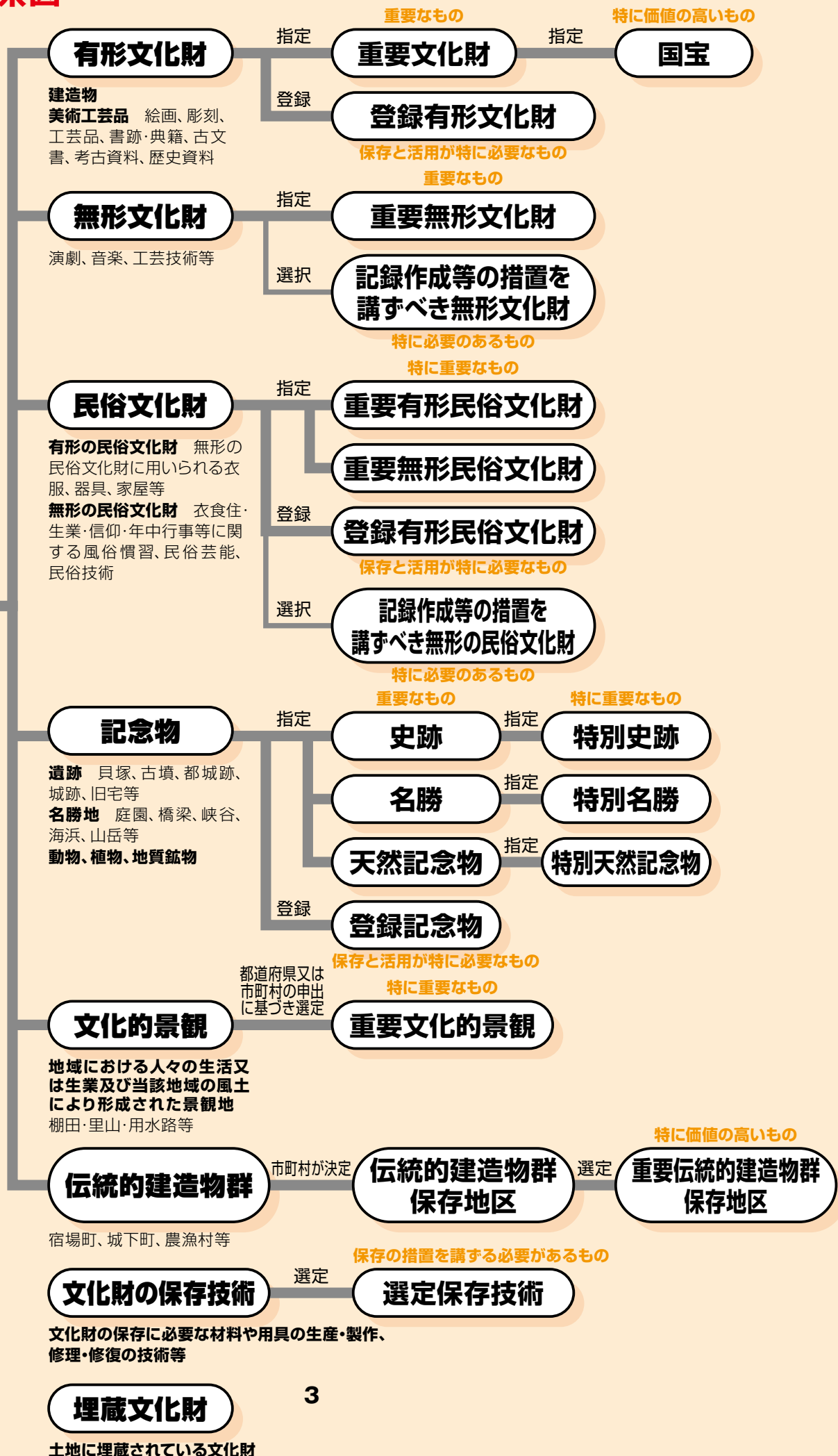
登録 登録有形文化財 (建造物)		11,263件
登録 登録有形文化財 (美術工芸品)		14件
登録 登録有形民俗文化財		42件

文化財の体系図

文化財



文化財愛護シンボルマーク
日本建築の重要な要素である斗拱(とぎょう:組物)をイメージしたもので、3つ重ねることにより、文化財を過去・現在・未来にわたり永遠に伝承していくという愛護精神を表現したものです。



法の遷移

制度の拡充が随時行われてきました。

文化財保護法は、昭和24年の法隆寺金堂壁画の焼損を契機に、日本最初の文化財保護のための統括的法律として制定されました。従来の「国宝保存法」、「重要美術品等ノ保存ニ関スル法律」、「史跡名勝天然記念物保存法」等を統合するとともに、その制度の拡充が図られました。これまで、社会の変化に伴って随時改正が行われており、文化財保護法は、昨今の社会情勢から、年々その重要性が増しています。

昭和25年

文化財保護法の制定

文化財保護委員会の設置

国の指定制度の改正
(国宝・重要文化財の2段階区分)等

無形文化財及び
埋蔵文化財の保護制度の創設

昭和29年改正

無形文化財に関する保護制度の充実

埋蔵文化財に関する保護制度の充実

民俗資料に関する保護制度の充実

昭和43年改正

文化庁の発足

明治4年 太政官布告・古器旧物保存方

明治30年 古社寺保存法

大正8年 史跡名勝天然記念物保存法

昭和4年 国宝保存法

昭和8年 重要美術品等ノ保存ニ関スル法律

重要文化財及び史跡名勝天然記念物のうち特に重要なものを国宝及び特別史跡、特別名勝、特別天然記念物に指定

無形の文化的所産及び埋蔵文化財が保護対象になる

重要無形文化財の指定制度の創設及び無形文化財の選択制度の創設

有形文化財の種類から独立させ、埋蔵文化財包蔵地発掘の事前届出制等の実施

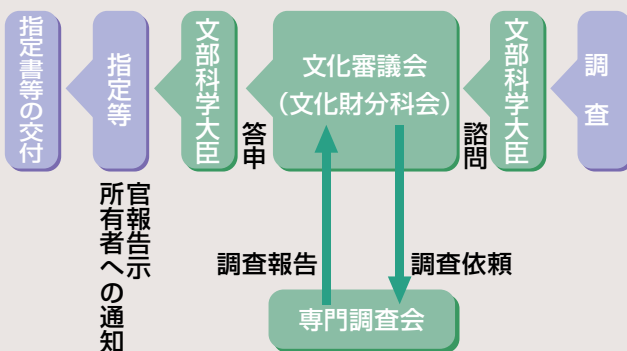
有形文化財の種類から独立させ、重要民俗資料の指定制度及び無形の民俗資料の選択制度の創設

国の文化財の保護のしくみと取組

指定等

・登録は、文部科学大臣が、その答申を受けて行われ

文化財の指定・選定・登録を受けるまで



「文化財」はこのようにして保存・活用されています。

文化財保護法に基づいて分類された文化財は、その分野に最も適した方法で守られています。



国宝 石清水八幡宮本社 (京都府八幡市)

文化財保護

昭和50年改正

埋蔵文化財に関する制度の整備

民俗文化財の保護制度の充実

伝統的建造物群保存地区制度の創設

文化財の保存技術の保護制度の創設

文化財保護審議会の設置

国の機関等による遺跡発見の場合の特例制度の創設や工事
中の遺跡発見の場合の保護制
度の整備等

民俗資料を民俗文化財に改
め、重要民俗資料を重要有形
民俗文化財とするとともに重
要無形民俗文化財の指定制度
を創設

伝統的建造物群及びこれと一
体を成してその価値を形成し
ている環境を保存するための
制度の創設

選定保存技術の選定制度の
創設

平成8年改正

文化財登録制度の創設

建造物のうち、国・地方公共団
体の指定以外の文化財の保存
等のための登録制度の創設

平成11年改正

都道府県・指定都市等
への権限委譲等

文化審議会への改革

平成16年改正

文化的景観の保護制度の創設

重要文化的景観の選定制度の
創設

民俗文化財の保護範囲の拡大

民俗技術を保護対象化

文化財登録制度の拡充

建造物以外の有形文化財、有
形の民俗文化財及び記念物に
も登録制度を拡充

活用

- 所有者、市町村への文化財公開の指示、命令・勧告、補助
- 博物館・劇場等の公開施設、文化財研究所の設置と運営



史跡 慧日寺跡（福島県磐梯町）



国宝 木造維摩居士坐像
（宗教法人 光明宗法華寺）

保存

- 所有者、市町村への管理・修理の指導、補助
- 文化財である土地・建物の公有化に対する市町村への補助
- 現状変更等の規制、輸出制限
- 課税上の特例措置の設定
- 必要な記録作成とその周知
- 環境保全

指

文化財の指定・選定
文化審議会に諮問し
ます。

・活用の例

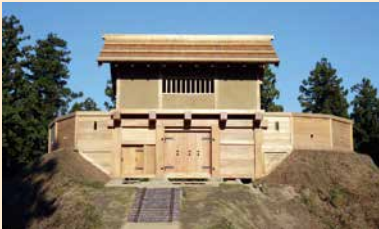


(写真提供：野木町教育委員会)

近代化遺産調査や近代和風建築調査に基づく重要文化財指定の推進や登録文化財制度の導入によって、文化財として扱われる近代の建造物は、ずいぶん人々の身近なものになりました。文化財となり、地域の財産として見直されることで、所有者や地方公共団体、市民団体などの協力で積極的に活用される近代の建造物も全国各地で増えています。栃木県野木町にある旧下野煉瓦製造会社煉瓦窯は、日本の近代化の一翼を担った明治時代の煉瓦工場の一部で国内で完全な形で残る希少な「ホフマン式円形輪窯」の煉瓦窯であることから、昭和54年に重要文化財に指定されました。

煉瓦窯は、昭和46年に煉瓦の製造を止めたあと、特に使われていませんでしたが、平成23年から始めた保存修理工事にあわせて公開活用するための設備の整備がおこなわれ、平成28年5月、装いもあらたに一般に公開されました。煉瓦窯の中に直接入って、煉瓦製造の歴史を体感しながら学べる施設となったほか、研修室やカフェレストランを備えた交流センターも併設され、様々な活動や催しにも活用できるようになりました。

今後、文化財を活用した社会教育施設としてのみならず、地域観光の拠点として多くの人々に親しまれる施設となっていくことが期待されています。



郭馬出西虎口門(復元)

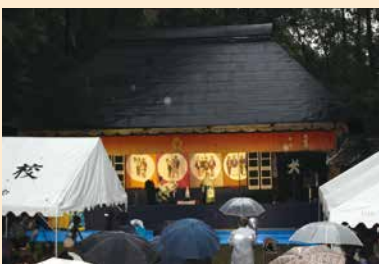


本丸南堀 (写真提供：高崎市教育委員会)

史跡では、文化財の価値を確実に維持した上で、その歴史・文化に対する理解を深めることが現地でできるように、さまざまな手法によって整備・活用を図っています。

箕輪城跡は、群馬県高崎市に在る榛名山の東南麓に位置しており、自然の地形を巧みに利用し、尾根上の曲輪を城の中心軸として線対称的に多くの曲輪を丘陵上に配しています。さらに平城部を一部含んだ平山城で、群馬県の戦国時代において屈指の規模を誇る城郭であることから昭和62年に国の史跡に指定されました。

整備においては、箕輪城跡の最大の特徴である空堀、土塁、曲輪等の保存整備を中心に実施しています。さらに城の特徴を理解でき、活用する上で有効であると判断し、発掘調査の成果により遺構の現存状況が良好であった郭馬出西虎口門の復元整備を実施しました。復元された城門は、伝統的な工法で行い、中世から近世への過渡期の状況を示す城門の復元事例となりました。このような中世城郭の復元事例は極めて少なく、こうした中世と近世をつなぐ城門として今後、貴重な整備事例になると考えています。さらにまちづくりの一端を担っている遺跡として、今後のさらなる発展が期待できます。



(写真提供：徳島市教育委員会)

重要有形民俗文化財の活用については、通常利用による公開や博物館等での展示などが中心ですが、近年、より積極的な動きもみられます。

徳島市八多町に「犬飼の舞台」という人形舞台があります。徳島県といえば、この種の農村舞台が多数現存する地域で、かつては盛んに人形浄瑠璃が演じられていたものです。なかでも犬飼の舞台は、原形構造を留め、襖カラクリといって、いくつもの襖絵を操って多彩な舞台背景を展開するといった、当地特有の舞台装置を備えていることから、平成十年に重要有形民俗文化財に指定されました。また、これを補う形で、平成十一年には「阿波の襖カラクリの習俗」が記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財に選択されています。

そうしたなか、大阪芸術大学の学生たちが新たな試みに挑戦してくれました。この舞台を使って、現代版襖カラクリの舞台作品を上演したのです。妖怪をテーマにした作品で、シナリオは同大教授の浜畑賢吉氏。新旧文化のコラボを起爆としたこのプロジェクトを契機に、学生たちと地元の方々との交流が芽生え、その実は固く結ばれました。

これは、文化財の活用を通じて、人的交流や文化の発信を成功させた好例で、何よりも地元で活気をもたらしたのは、たいへん意義あることです。

重要文化財(建造物)

旧下野煉瓦製造会社煉瓦窯

史跡

箕輪城跡

重要有形民俗文化財

犬飼の舞台

文化財の保存

重要文化財（美術工芸品）

購入文化財展／新指定展

文化庁では、国宝・重要文化財等の貴重な文化財の鑑賞機会の充実を図るため、各種展覧会への出品を行っています。

毎年、各地の博物館等において、文化庁が近年購入した美術工芸品を展覧する「新たな国民のたから」展を開催しており、平成29年度は一関市立博物館において実施します。

また、新たに国宝・重要文化財に指定される美術工芸品を展覧する「新指定 国宝・重要文化財」展についても、毎年、東京国立博物館において開催しています。

文化庁では、今後も貴重な文化財を国内外の展覧会で積極的に公開していく予定です。



— 新たな国民のたから — 文化庁購入文化財展 —

重要無形文化財（芸能）

組踊特別鑑賞会

文化庁では、能楽や人形浄瑠璃文楽、歌舞伎など重要無形文化財に指定された伝統芸能について、実演家団体等の実施する伝承者養成事業等に補助を行っています。また、伝統芸能は観客があつてこそ将来への確実な継承が図られることから、伝統芸能の鑑賞機会を充実させ、その魅力を多くの人々に伝えることを目的とする公開事業に対しても支援をしています。

重要無形文化財「組踊」は、沖縄県に伝わる歌舞劇です。琉球王国時代の音楽や舞踊、工芸技術等の集大成ともいえ、芸術上・芸能史上重要な価値を有する伝統芸能ですが、沖縄県外ではほとんど知られていない状況がありました。そこで、平成7年度から保持者の団体である伝統組踊保存会と沖縄県教育委員会は、毎年、沖縄県外の6地域で組踊を公開する組踊特別鑑賞会を実施しています。工夫のこらされた解説とともに組踊を鑑賞できる貴重な機会となっています。



(写真提供：一般社団法人伝統組踊保存会)

重要無形文化財（工芸技術）

「日本のわざと美」展

文化庁では、重要無形文化財の「わざ」と文化財を支える技術の公開事業として、毎年「日本のわざと美」展―重要無形文化財とそれを支える人々―を開催しています。

この展覧会は、重要無形文化財に指定された陶芸、染織、漆芸等の伝統的な工芸技術と、それらの工芸技術の表現に欠くことのできない用具や材料の製作・生産等のうち、特に選定された文化財の保存技術を広く公開することによって、文化財保護について国民の理解を得ることを目的としています。

文化庁がこれまでに収蔵してきた重要無形文化財保持者（いわゆる人間国宝）と同保持団体の代表的作品や関係資料等の展示とあわせ、文化庁の企画・製作による工芸技術記録映画の上映等も行っています。



(会場：島根県立古代出雲歴史博物館)

文化財情報の発信

文化遺産オンライン

「文化遺産オンライン」は、多くの美術館・博物館や地方自治体等の協力を得て、指定・未指定を問わず文化遺産の検索・閲覧ができるサイトです。多様な文化遺産に関する情報の集約化を進め、我が国の文化遺産の総覧を目指しています。

文化遺産オンラインには、文化遺産の写真を見ることが出来る「ギャラリー」と、全ての文化遺産の情報を検索できる「文化遺産データベース」があります。「ギャラリー」では、文化遺産を時代や分野ごとに閲覧できるほか、連想検索で特定の文化遺産と関連がある文化遺産を調べたり、地図を使った検索・表示を行ったりすることができます。また「文化遺産データベース」では、文化遺産の所蔵館による検索や解説文も含めた全文検索も行うことができます。その他にも、美術館・博物館についての情報や、お知らせ・イベント情報、「世界遺産と無形文化遺産」、「動画で見る無形の文化財」などの特集コンテンツも掲載しています。



文化遺産オンライン(トップページ画像)
http://bunka.nii.ac.jp/

文化財保護の普及や啓発活動

文化財保護強調週間

(毎年11月1日～7日)

毎年11月1日から7日までの1週間は、文化財保護強調週間です。この期間中には、国民が文化財に親しむことを目的として、文化財所有者や都道府県及び市町村の教育委員会の協力のもと、歴史的建造物や美術工芸品の特別公開、文化財ウォーク、伝統芸能発表会などの様々な行事が全国各地で開催されます。

また、平成22年に文化財保護法施行60周年を記念し、文化財保護強調週間がより国民に身近となるよう公募によりロゴマークを作成しました。



文化財保護強調週間

Cultural Properties Protection Week



火おこしに挑戦!

(東京都西東京市)

(写真提供: 西東京市教育委員会)

文化財保護強調週間のロゴマーク

文化財防火デー

(毎年1月26日)

1月26日は、法隆寺金堂壁画が焼損した日(昭和24年)に当たるので、その日を「文化財防火デー」と定め、この日を中心として文化財を火災、震災、その他災害から守るため、文化庁、消防庁、都道府県・市町村教育委員会、消防署、文化財所有者、地域の住民等が連携・協力して、毎年全国各地文化財防火運動を展開しています。

平成29年1月26日の第63回文化財防火デーでは、奈良県奈良市の唐招提寺で、文化庁長官と消防庁次長が出席する中、奈良市消防局、奈良市消防団、唐招提寺自衛消防隊などが参加し、大規模な訓練が行われました。



第63回文化財防火デー防火訓練

(唐招提寺)

地方公共団体の文化財保護の取組

文化財保護条例の制定

国と同様に地方公共団体でも、より身近な地域の文化財を保護するために、文化財保護法に基づき文化財保護条例を制定し、地域内の文化財を指定等しています。そして、これら文化財の管理・修理公開等に要する経費について補助を行い、地域の文化財の保存と活用を図っています。

また、都道府県教育委員会には文化財保護指導委員が置かれ、文化財の巡視や文化財所有者等に対する文化財保護に関する指導・助言等を行っています。



青森県指定文化財五戸町消防団
第一分団屯所
(写真提供：青森県教育委員会)

埋蔵文化財の保存と活用

全国各地にはかけがえない地域の歴史を伝える埋蔵文化財が豊富に残っています。各都道府県・市町村には、開発事業と保存調整、発掘調査の実施、遺跡の保存と活用等のために、約6000人の専門職員が配置されています。

各地方公共団体では、保存された遺跡の整備、発掘調査で出土した土器等の公開、明らかにした地域の歴史や文化の普及等をおして、埋蔵文化財を活かした地域づくり・ひとづくりにも取り組んでいます。



史跡五斗長垣内遺跡での活用イベント(鑑治実験)
(写真提供：淡路市教育委員会)

伝統的建造物群保存地区の保存と活用

昭和50年、地域の歴史や文化を伝える集落や町並みを保存するため、伝統的建造物群保存地区制度が創設されました。この制度は、市町村が保存地区や保存計画を定めます。

国により重要伝統的建造物群保存地区に選定されると、市町村が主体となつて行う整備事業等について、国や都道府県の技術的・財政的支援を受けることができ、市町村により個性豊かな歴史的集落・町並みの保存が進められています。



亀山市関宿伝統的建造物群保存地区
(写真提供：亀山市)

文化財の総合的な保存・活用とまちづくり

文化庁は、地域の文化財の保存・活用のマスタープランである「歴史文化基本構想」の策定支援、並びに同構想に基づき実施される文化財を中核とする観光拠点づくりへの支援を行っています。また、国土交通省、農林水産省と連携して「歴史的風致維持向上計画」の認定を行っており、計画が認定された地域は、歴史的風致をいかしたまちづくりに関する重点的な支援を受けることができます。



金沢市における歴史文化基本構想研究会フィールドワークの様子

文化的景観の保存と活用

地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地である文化的景観を保存するために、都道府県・市町村が調査を行い、保存計画を策定します。

国により重要文化的景観に選定されると、地方公共団体が主体となつて行う整備事業等について、国の技術的・財政的支援を受けることができ、地方公共団体により地域の生活・生業に根ざした景観を護り、次世代へ受け継ぐ取組が進められています。



三角浦の文化的景観
(写真提供：宇城市)

文化遺産総合活用推進事業

近年、日本各地の「たから」である多様で豊かな文化遺産について、適切な保存・継承の必要とともに地域活性化に資する役割が再認識され、その積極的な活用が期待されています。

「文化遺産総合活用推進事業」では、地方公共団体が策定する計画に基づき、伝統行事・伝統芸能の公開や後継者養成、古典に親しむ活動など、地域の文化遺産を活用した特色ある総合的な取組に対して支援を行い、文化振興とともに地域活性化を推進しています。



角田市民俗芸能大会で披露される「青葉の田植踊」
(写真提供：角田市教育委員会)

世界の文化財へ

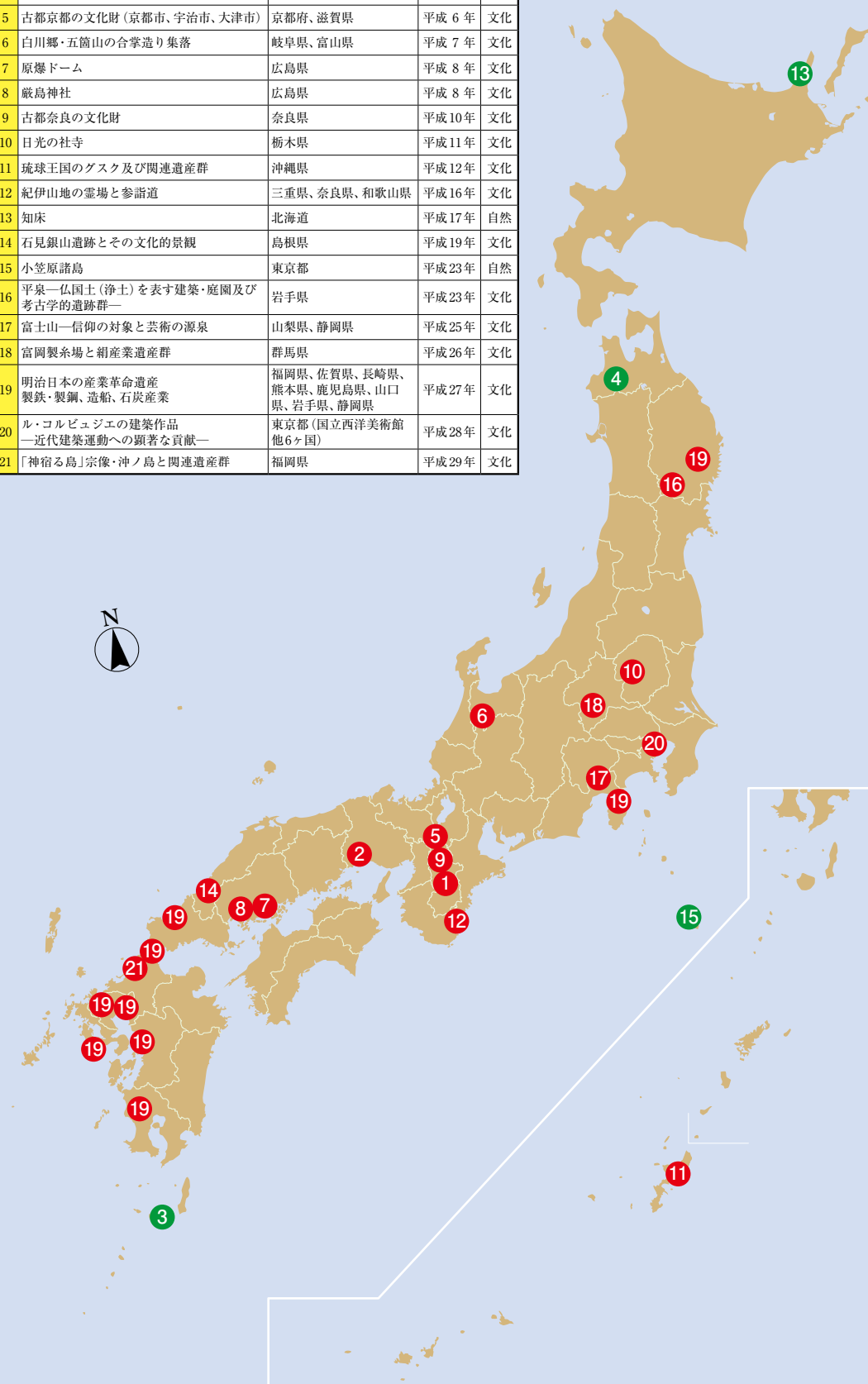
	記載物件名	所在地	記載年	区分
1	法隆寺地域の仏教建造物	奈良県	平成 5 年	文化
2	姫路城	兵庫県	平成 5 年	文化
3	屋久島	鹿児島県	平成 5 年	自然
4	白神山地	青森県、秋田県	平成 5 年	自然
5	古都京都の文化財（京都市、宇治市、大津市）	京都府、滋賀県	平成 6 年	文化
6	白川郷・五箇山の合掌造り集落	岐阜県、富山県	平成 7 年	文化
7	原爆ドーム	広島県	平成 8 年	文化
8	厳島神社	広島県	平成 8 年	文化
9	古都奈良の文化財	奈良県	平成10年	文化
10	日光の社寺	栃木県	平成11年	文化
11	琉球王国のグスク及び関連遺産群	沖縄県	平成12年	文化
12	紀伊山地の霊場と参詣道	三重県、奈良県、和歌山県	平成16年	文化
13	知床	北海道	平成17年	自然
14	石見銀山遺跡とその文化的景観	鳥根県	平成19年	文化
15	小笠原諸島	東京都	平成23年	自然
16	平泉—仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群—	岩手県	平成23年	文化
17	富士山—信仰の対象と芸術の源泉	山梨県、静岡県	平成25年	文化
18	富岡製糸場と絹産業遺産群	群馬県	平成26年	文化
19	明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業	福岡県、佐賀県、長崎県、 熊本県、鹿児島県、山口 県、岩手県、静岡県	平成27年	文化
20	ル・コルビュジエの建築作品 —近代建築運動への顕著な貢献—	東京都（国立西洋美術館 他6ヶ国）	平成28年	文化
21	「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群	福岡県	平成29年	文化

人類の貴重な遺産の継承をめざして

世界遺産

昭和47年、パリのユネスコ総会で「世界遺産条約」が採択されました。これは、顕著な普遍的価値を有する文化遺産や自然遺産を人類全体のための世界の遺産として損傷や破壊等の脅威から保護するため、国際的な協力及び援助の体制を確立することを目的とするものです。

現在、1073件が世界遺産一覧表に記載されており、我が国からは、17件の文化遺産、4件の自然遺産が記載されています（平成29年8月現在）。



日本の文化財を



富士山—信仰の対象と芸術の源泉
(写真提供：富士市)



古都奈良の文化財
(写真提供：奈良県教育委員会)



法隆寺地域の仏教建造物 (写真提供：法隆寺)



富岡製糸場と絹産業遺産群
(写真提供：群馬県)



日光の社寺 (写真提供：日光東照宮)



姫路城 (写真提供：姫路市)



明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業 (写真提供：「九州・山口の近代化産業遺産群」世界遺産登録推進協議会事務局)



琉球王国のグスク及び関連遺産群
(写真提供：沖縄県教育委員会)



古都京都の文化財
(写真提供：京都市元離宮二条城事務所)



ル・コルビュジエの建築作品 —近代建築運動への顕著な貢献—
(写真提供：国立西洋美術館)



紀伊山地の霊場と参詣道
(写真提供：和歌山県教育委員会)



白川郷・五箇山の合掌造り集落
(写真提供：白川村教育委員会)



「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群
(写真提供：「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議)



石見銀山遺跡とその文化的景観
(写真提供：島根県教育委員会)



原爆ドーム



平泉—仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群 (写真提供：川嶋印刷株式会社)



厳島神社 (写真提供：広島県教育委員会)

無形文化遺産の保護

無形文化遺産

「無形文化遺産の保護に関する条約（無形文化遺産保護条約）」は、平成15年10月のユネスコ総会において採択され、平成18年4月に発効しました。我が国は、平成16年6月に世界3番目の締約国になりました。平成29年8月現在の締約国は174か国です。

本条約は、締約国に対して、国内の無形文化遺産を特定し、目録を作成することを求め、また、ユネスコにおいて「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表（代表一覧表）」及び「緊急に保護する必要がある無形文化遺産の一覧表（緊急保護一覧表）」を作成することなどを定めています。

現在、365件が「代表一覧表」に記載されており、我が国からは21件の無形文化遺産が記載されています（平成29年8月現在）。

平成28年11月、アデイスアベバ（エチオピア）で開催された第11回無形文化遺産保護条約政府間委員会において、我が国提案の「山・鉾・屋台行事」が、「代表一覧表」に記載されました。これは、平成21年に記載された「日立風流物」「京都祇園祭の山鉾行事」に、31件の山・鉾・屋台行事（いずれも国指定重要無形民俗文化財）を加え、拡張提案したものです。

「代表一覧表」に記載されている我が国の無形文化遺産（21件）

名 称	記載年
能楽	平成20年記載
人形浄瑠璃文楽	平成20年記載
歌舞伎	平成20年記載
雅楽	平成21年記載
小千谷縮・越後上布	平成21年記載
甕島のトシドン（鹿児島県）	平成21年記載
奥能登のあえのこと（石川県）	平成21年記載
早池峰神楽（岩手県）	平成21年記載
秋保の田植踊（宮城県）	平成21年記載
チャッキラコ（神奈川県）	平成21年記載
大日堂舞楽（秋田県）	平成21年記載
題目立（奈良県）	平成21年記載
アイヌ古式舞踊（北海道）	平成21年記載
組踊	平成22年記載
結城紬	平成22年記載
壬生の花田植（広島県）	平成23年記載
佐陀神能（島根県）	平成23年記載
那智の田楽（和歌山県）	平成24年記載
和食：日本人の伝統的な食文化	平成25年記載
和紙：日本の手漉和紙技術	平成26年記載
山・鉾・屋台行事	平成28年記載

山・鉾・屋台行事

※国指定重要無形民俗文化財である山・鉾・屋台行事33件をグループ化



京都祇園祭の山鉾行事（京都府）



日立風流物（茨城県）



高山祭の屋台行事（岐阜県）



秩父祭の屋台行事と神楽（埼玉県）

国際交流・協力の推進

国際協力体制

人類共通の財産である文化遺産を国際協力の下で守るために、外国や国際機関と協力して、研究交流、保存修復協力、専門家の養成などを実施しています。

海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する法律

平成18年6月、「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する法律」が成立しました。この法律では、我が国の文化遺産国際協力について、国や教育研究機関の果たすべき責務、関係機関の連携の強化、基本方針の策定等が定められています。これにより、文化遺産国際協力活動の法的な位置付けが図られ、国内の協力体制の構築や関係機関の連携の強化による効果的な文化遺産国際協力の実施が図られることとなります。

文化遺産保護国際貢献事業

紛争や自然災害により被災した文化遺産の緊急支援のための専門家の派遣や、海外の文化遺産保護の拠点となる機関との連携による保存修復事業のほか、アジア太平洋地域の文化遺産保護担当者を対象に研修を実施するなど、文化遺産保護に係る専門家や若手研究者の人材養成を通じた国際協力を推進しています。また、平成18年には、文化遺産国際協力を推進するため、国内の政府機関、研究機関、NGOなどが参加した「文化遺産国際協力コンソーシアム」が発足し、国内各研究機関等のネットワーク構築や情報の収集・提供、調査研究等を実施しています。



ミャンマーにおける考古技術移転に関する拠点交流事業
(写真提供：(独法) 国立文化財機構奈良文化財研究所)



フィリピンにおけるワークショップ
(写真提供：(公財) ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務局)



平成28年度日本古美術海外展「日本仏像展」
(於クイリナーレ宮美術館)

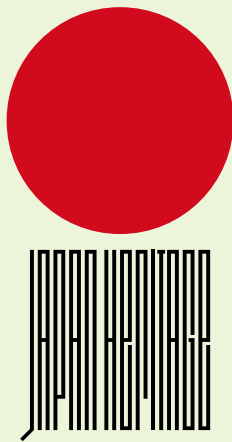
国際交流

日本古美術海外展

文化財を通じた国際交流は、互いの文化の交流や相互理解の増進に寄与するものです。文化庁では、我が国の優れた文化財を外国に紹介し、日本の歴史、文化に対する理解を深め、国際文化交流を推進するため、昭和26年以降、国宝・重要文化財を含む日本古美術海外展を継続的に実施しています。

また、平成8年度からは、欧米での開催に加え、戦後50年を機会にアジアにおいてもアジア友好日本古美術展を実施しています。平成28年度は、イタリア・ローマクイリナーレ宮美術館において「日本仏像展」を実施しました。

の土地に物語が生まれる。 へ！ 日本遺産、はじまります。



JAPAN HERITAGE

日本遺産

日本遺産の概要

「日本遺産（Japan Heritage）」は、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産（Japan Heritage）」として文化庁が認定するものです。

ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。現在、54件のストーリーを認定しています（平成29年8月現在）。



4 あぶれ祭り (能登町)



14 尾道市旧福井邸周辺 (文学記念室)

平成27年度認定の日本遺産（18件）

- | | |
|-------------------------------------|---|
| 1 近世日本の教育遺産群—学び心・礼節の本源— | 10 丹波篠山 デカンショ節
—民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶— |
| 2 かかあ天下—ぐんまの絹物語— | 11 日本国創成のとき～飛鳥を翔（かけ）た女性たち～ |
| 3 加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち 高岡
—人、技、心— | 12 六根清浄と六感治癒の地
～日本一危ない国宝鑑賞と世界屈指のラドン泉～ |
| 4 灯（あか）り舞う半島 能登～熱狂のキリコ祭り～ | 13 津和野今昔～百景図を歩く～ |
| 5 海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群
～御食国若狭と鯖街道～ | 14 尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市 |
| 6 「信長公のおもてなし」が息づく戦国城下町 岐阜 | 15 「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～ |
| 7 祈る皇女斎王のみやこ 斎宮 | 16 古代日本の「西の都」～東アジアとの交流拠点～ |
| 8 琵琶湖とその水辺景観—祈りと暮らしの水遺産— | 17 国境の島 舌岐・対馬・五島～古代からの架け橋～ |
| 9 日本茶800年の歴史散歩 | 18 相良700年が生んだ保守と進取の文化
～日本でもっとも豊かな隠れ里—人吉球磨～ |

平成28年度認定の日本遺産（19件）

- | | |
|--|---|
| 19 政宗が育んだ「伊達」な文化 | 29 飛騨匠の技・ところ
—木とともに、今に引き継ぐ1300年— |
| 20 自然と信仰が息づく『生まれかわりの旅』～樹齢300年を越える杉並木につつまれた2,446段の石段から始まる出羽三山～ | 30 『古事記』の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」
～古代国家を支えた海人の営み～ |
| 21 会津の三十三観音めぐり
～巡礼を通して観た往時の会津の文化～ | 31 森に育まれ、森を育んだ人々の暮らしとところ
～美林連なる造林発祥の地「吉野」～ |
| 22 未来を拓いた「一本の水路」
—大久保利通「最後の夢」と開拓者の軌跡 郡山・猪苗代— | 32 鯨とともに生きる |
| 23 「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」—佐倉・成田・佐原・銚子：百万都市江戸を支えた江戸近郊の四つの代表的町並み群— | 33 地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市 |
| 24 江戸庶民の信仰と行楽の地
～巨大な木太刀を担いで「大山詣り」～ | 34 出雲國たたら風土記～鉄づくり千年が生んだ物語～ |
| 25 「いざ、鎌倉」
～歴史と文化が描くモザイク画のまちへ～ | 35 鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴
～日本近代化の躍動を体感できるまち～ |
| 26 「なんだ、コレは！」
信濃川流域の火焔型土器と雪国の文化 | 36 「日本最大の海賊」の本拠地：芸予諸島
—よみがえる村上海賊「Murakami KAIZOKU」の記憶— |
| 27 「珠玉と歩む物語」小松
～時の流れの中で磨き上げた石の文化～ | 37 日本磁器のふるさと 肥前
～百花繚乱のやきもの散歩～ |
| 28 木曾路はすべて山の中～山を守り 山に生きる～ | |



21 さざえ堂

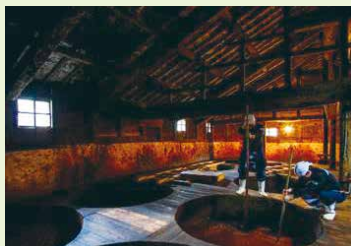


36 能島城跡

歴史の声に耳を傾けるとそ 文化財は保存から活用の時代

平成29年度認定の日本遺産(17件)

38 江差の五月は江戸にもない —ニシンの繁栄が息づく町—	47 「最初の一滴」醤油醸造の発祥の地 紀州湯浅
39 荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～	48 日が沈む聖地出雲～神が創り出した地の夕日を巡る～
40 サムライゆかりのシルク 日本近代化の原風景に出会うまち鶴岡へ	49 一輪の綿花から始まる倉敷物語 ～和と洋が織りなす繊維のまち～
41 和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田	50 きっと恋する六古窯 —日本生まれ日本育ちのやきもの産地—
42 忍びの里 伊賀・甲賀—リアル忍者を求めて—	51 森林鉄道から日本一のゆずロードへ —ゆずが香り彩る南国土佐・中芸地域の景観と食文化—
43 300年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊	52 関門“ノスタルジック”海峡 ～時の停車場、近代化の記憶～
44 1400年に渡る悠久の歴史を伝える「最古の国道」 ～竹内街道・横大路(大道)～	53 米作り、二千年にわたる大地の記憶 ～菊池川流域「今昔「水稲」物語」～
45 播但貴く、銀の馬車道 鉱石の道 ～資源大国日本の記憶をたどる73kmの轍～	54 やばけい遊覧～大地に描いた山水絵巻の道をゆく
46 絶景の宝庫 和歌の浦	

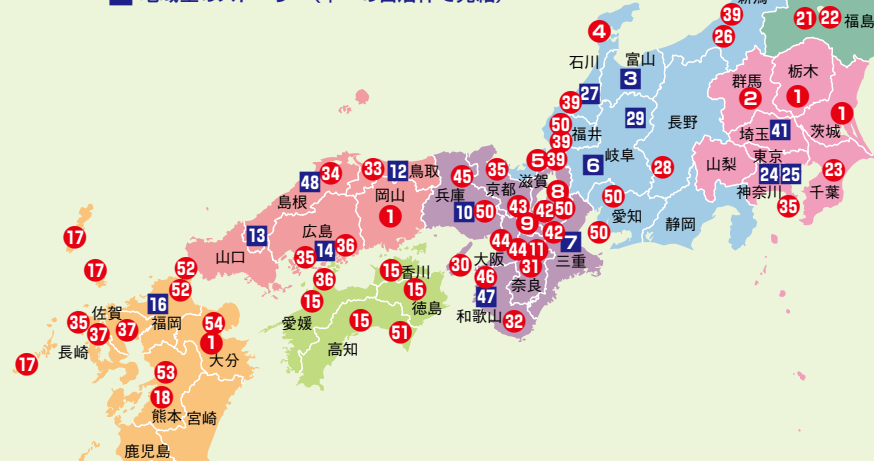


47 醤油づくり



48 経島の夕日

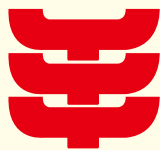
- シリアル型のストーリー(複数の自治体に展開)
- 地域型のストーリー(単一の自治体で完結)



日本遺産に認定する ストーリー

「日本遺産(Japan Heritage)」に認定するストーリーは、次の3点を踏まえた内容とします。

- ① 歴史的経緯や地域の風習に根ざし、世代を超えて受け継がれている伝承、風習などを踏まえたものであること。
- ② ストーリーの中核には、地域の魅力として発信する明確なテーマを設定の上、建造物や遺跡・名勝地、祭りなど、地域に根ざして継承・保存がされている文化財にまつわるものを据えること。
- ③ 単に地域の歴史や文化財の価値を開発するだけのものにならないこと。



文化財愛護シンボルマーク

「文化財愛護シンボルマーク」は文化財愛護地域活動の趣旨を国民に普及するため、昭和41年5月30日の文化財保護法公布記念日に公募したデザインの中から決定したものです。

文化庁文化財部
東京都千代田区霞が関3-2-2
TEL 03-5253-4111(代表)
URL <http://www.bunka.go.jp>